新宿区立あゆみの家は、平成24年4月から社会福祉法人　新宿区障害者福祉協会が管理・運営しています

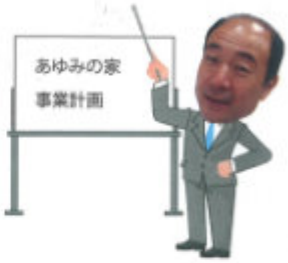
編集・発行：新宿区立あゆみの家

元気にマジメに笑顔をつなぐ

あゆみだより

2018年3月30日発行
No.209

平成30年度のあゆみの家の事業計画をご紹介します！



平成30年度のあゆみの家の事業計画を策定しましたので、その運営の基本方針をご紹介します。

平成30年度の重点的な取り組みは３点あります。

①定員問題と利用者の重度・重症化に対応できる体制整備に向けて検討します。

年々進む利用者の重度化、特に医療的ケアを必要とする利用者の受け入れ体制の整備は急を要する課題です。現在、区内では生活介護施設の新設計画がなく、既存の事業所の受け入れ調整や定員の増員の検討が行われています。あゆみの家は昨年度提出された新宿区の実行計画で、重症心身障害者通所事業の実施が決定しています。

そこで平成32年度の開始に向けて、施設・設備改修の計画、医療的ケアの知識・スキルの向上、グループ増の分け方やプログラム策定のための情報収集（他施設の見学、研修）などハード面とソフト面の両方から検討していきます。

②利用者の個性や障害状況に応じたプログラムを立案します。

平成30年の4月には、5名の新規入所者を受け入れます。

障害状況や適性の把握、ご家族との協力関係において丁寧な受け入れを心がけて、新規利用者の円滑な定着と在籍する利用者を含めた適切なプログラムの作成を図ります。

その中には、昨年度に導入したスヌーズレン等を利用した感覚活動により、楽しみながら緊張が緩和する肢位をとることや作品作りを通して社会参加するなど、利用者の障害の重度化が進むなかでも利用者が能動的で受容的な人間関係を形成できるプログラムを展開していきます。

また、知的障害の利用者についても、障害特性に合わせた環境整備や支援方法の充実のために、新たに臨床心理士のアドバイスを受ける計画を進めていきます。

③利用者全員の安全安心な支援体制の充実、かつ継続していける支援体制を構築します。

あゆみの家は、区内の障害者施設では利用者の障害程度が最も重度であり、支援の専門性と習熟度、保護者との協力関係、介護や医療に係るリスク管理において、より高水準の管理・運営が求められる施設です。

第2期指定管理期間の2年目にあたる平成30年度は、介護スキル充実のための研修強化、医療職と介護職の更なる連携強化とともに、緊急時・災害時の対応マニュアルの整備と避難訓練等の強化を進めます。

また、支援員間のコミュニケーションを活性化し、働きやすい職場づくりを目指すことによって、利用者全員にとっての安全安心な支援体制を構築していきます。

事業計画では、この運営の基本方針のほかに、以下に掲げる項目ごとに事業目的や事業内容を策定しています。

- 生活介護事業
- 短期入所事業及び日中ショートステイ事業
- 土曜ケアサポート事業
- 計画相談支援事業
- 利用者への支援
- 「利用者主体」の施設運営
- 地域貢献、地域交流、ボランティアの育成
- 人材育成と職員配置
- 管理運営の事務執行
- 適正な労働環境の確保
- 危機管理体制

「あゆみの家」佐藤晃也所長からのメッセージ

平成30年度は、様々な面において広がりの基盤を作る年度と捉えています。

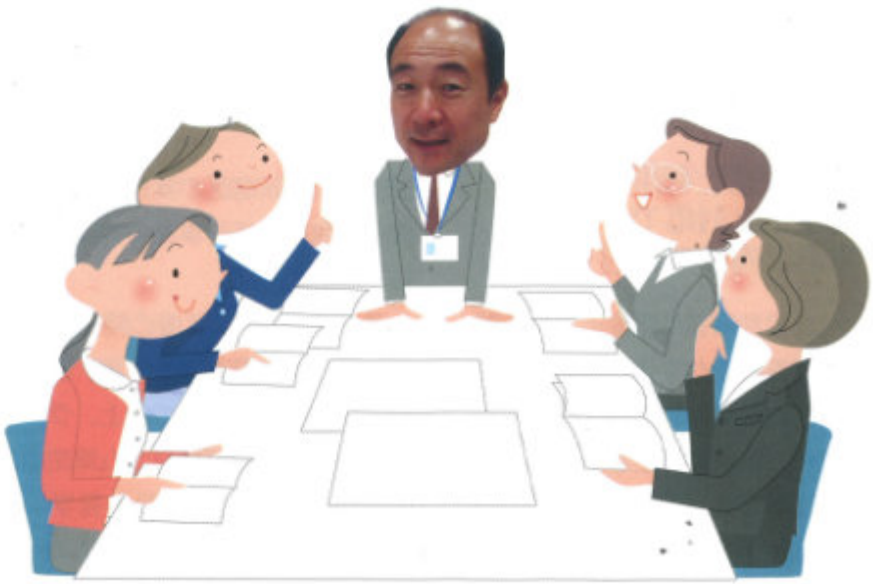
事業計画を柱とすると、広がりとは梁や壁で建物をより強固に、楽しくするもので、その中の一つは「参加」という言葉がキーワードになると思います。

2020年には東京オリンピック、パラリンピックが控えており、国内、特に首都圏ではスポーツに対する関心・活動がより高まっています。

スポーツは身体を丈夫にするだけでなく、一緒に関わる人同士の一体感を生み出し、競い合う楽しさも感じることができます。

あゆみの家でも、利用者がスポーツ等を通して楽しく競い合い、参加の広がりを出していけるような支援を考えていきます。また、利用者、職員が各イベントに参加して、地域の方々と関わって、あゆみの家の広がりを作っていきたいと思っています。

どうぞよろしくお願いいたします。



あゆみの家には、音楽がいっぱい♪

はんだすなおさんライブを開催！

あゆみの家では、様々な日中活動を行っていますが、そのなかでも音楽のプログラムが充実しています。

職員によるあゆみバンドのほか、外部からのボランティアの音楽家の皆さんにもご協力いただいています。

例えば、MT（ミュージック・セラピー）の講師の方々、武蔵野音大さん、WASEDAノエルズさん、日本福祉教育専門学校さん、D' STARSさん、三味線のご夫婦……などなど。

なかでも、初めてライブ演奏をお願いして以来、今年で5年目になる「はんだすなおさん」には、大変お世話になっております。

はんだすなおさんは、キーボーディスト、シンガーソングライター、サウンドクリエーターといった多方面でその才能を発揮されている方です。

自身がリーダーを務めるバンド（西遊記、TACIO CANAS、都会のラクダ、寝音屋）やソロのシンガーソングライターとして、演奏されています。

また、円道一成、二井原実（LOUD NESS）、乃木坂46、李涛（ex劇団四季）などのサポートメンバーとしても活躍されています。

その他ミュージカル演奏、企業CMの音楽制作、多数のミュージシャンのレコーディングへの参加等、幅広く活動されています。

さてここで、はんだすなおさんにミニ・インタビューです。

Q：音楽を始めたきっかけは？

A：3歳からピアノを始めました。母がピアノを弾いているのを見て、自分も弾いてみたいと思いました。

Q：演奏した場所で印象的な所は？

A：地上50メートルの高速道路の上です。落成式の演奏でした。
自分は音楽の世界に入って音楽をするよりも、スキマの世界で音楽をする方が面白いと思いました。

Q：あゆみで演奏するときの気持ちは？

A：利用者の皆さんに、普段なかなか味わえない音楽を届けたいと思っています。

ミュージシャンとして、皆さんと同じ瞬間を共有できるのが幸せです。

職員の方は、自分が見つけられないような利用者さんの小さな変化を察知していて、一緒に喜んでくれている様子を見ると最高の気分です。

ライブが終わった後に、利用者さんのお昼時に伺うと、職員の皆さんが食事の介助を頑張っているので、その姿に感心しています。

いつもステキな音楽をたくさん届けて下さるはんだすなおさん、これからもあゆみの家をどうぞよろしくお願いいたします！

今年も「染の小道」に出品しました！

今年で10回目を迎える「染の小道」。大正時代から妙正寺川沿いに染色産業が集まっていた新宿区の落合・中井地区ですが、その記憶を現代によみがえらせるのが、「川のギャラリー」です。

ギャラリーに展示する反物をみんなで染める「百人染め」のイベントに今年もあゆみの家は参加しました。

あゆみの家では、交流タイムのアート班を中心に、みんなで作品を作りました。

一反の正絹の白生地に色々な染料を使って染め上げます。

スーパーボールやテニスボールを転がして跡をつけたり、魚や葉っぱの模様を全体に散りばめていきます。

仕上げはドライヤーやアイロンを使って、生地を乾かせば完成です。

あゆみの家の染物が川面に映えて、このイベントを大いに盛り上げました。

快挙！ 箱根山駅伝で、あゆみの家が６位入賞 !!

好天に恵まれ、ゴールデンウィークのような陽気のもと、今年も3月4日に「第9回箱根山駅伝」が行われました。

この駅伝は（あの有名な駅伝と一字違い！）、箱根山の外周12kmの距離を5人がタスキでつなぎ、タイムを競うものです。

新宿区障害者福祉協会からは、あゆみの家と障害者福祉センターの2チームが一般の部に参加し、多くのランナーたちとともに健脚を披露しました。

平昌オリンピックの興奮が会場に再現され、ここ戸山の地でも熱い戦いが繰り広げられました。

我があゆみの家チームは、佐藤所長を筆頭に、職員の息子さんにもお手伝いいただいた精鋭ぞろいで臨みました。

周囲の方々からの「がんばって！」の声援にたくさんの勇気をいただき、その結果は……。

参加27チームのうち、見事6位入賞を獲得しました !!

おめでとうございます！

駅伝の様子は、翌日の朝日新聞の朝刊にも取り上げられていました。

来年は優勝を期待しています !?　参加されたランナーの皆様、本当にお疲れさまでした。